

# 令和5年度の予算ヒアリングがスタートしました。

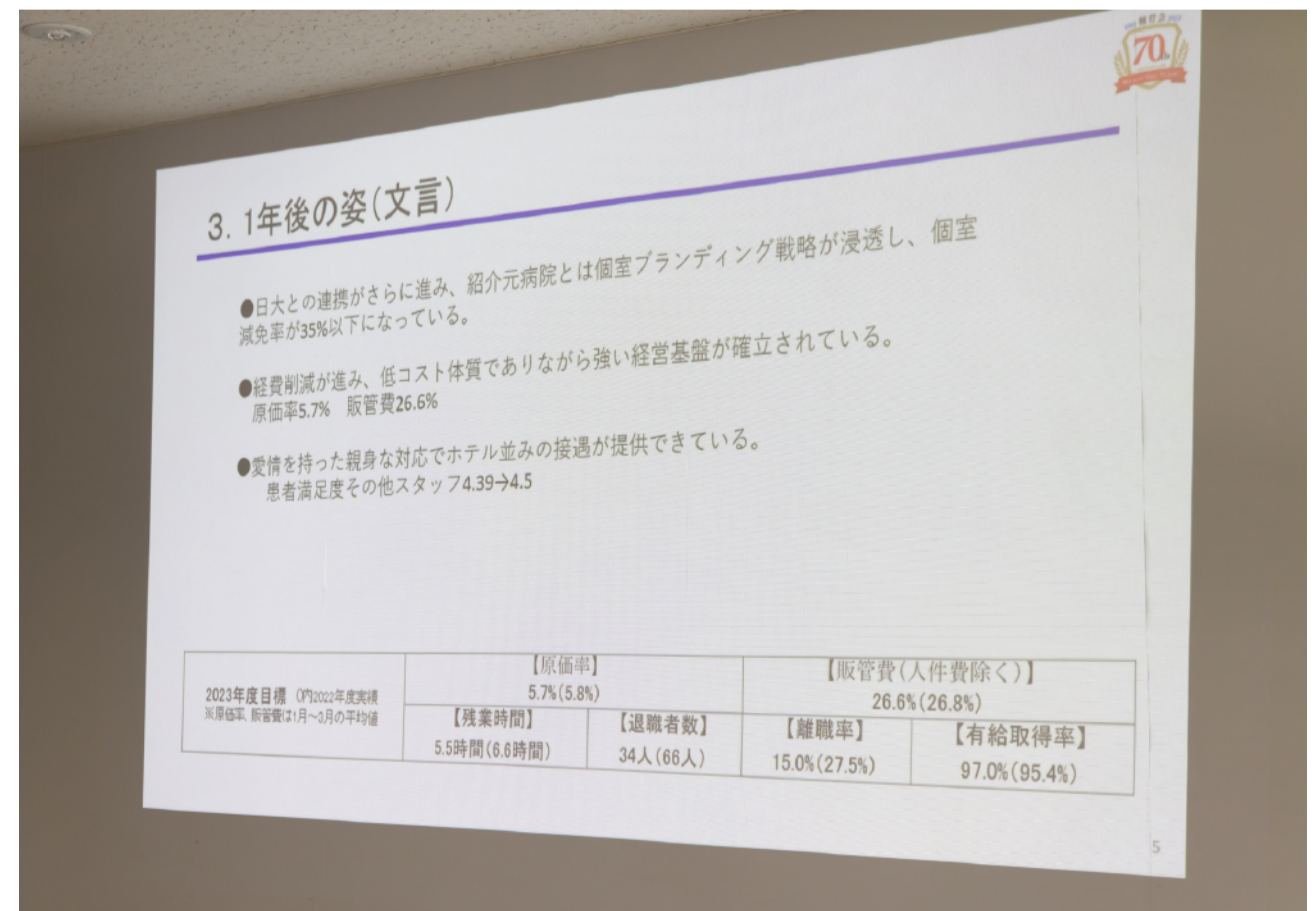
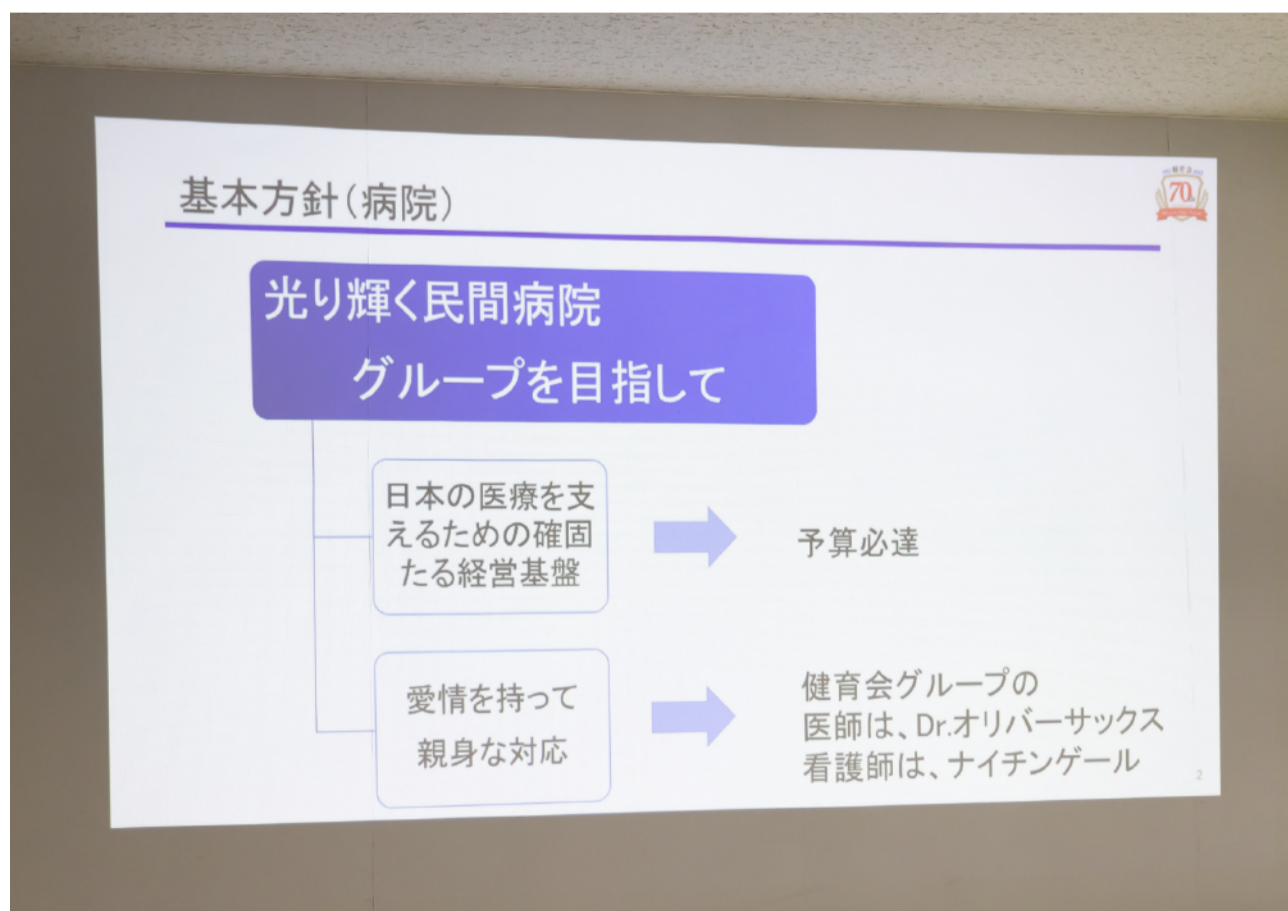
医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



4月から令和5年度の予算ヒアリングがスタート。今年は新たなミッションの追及に伴い、ヒアリングのフォーマットが大きく変更となりましたので、その詳細をお伝えします。

毎年恒例となっている年度当初の予算ヒアリング。今年は年度末の3月に私と本部の幹部がすべての病院・施設を順次回り、昨年度の振り返りと本年度の経営目標についてディスカッションを行っています。

前回の理事長トークでもお伝えしましたが、今年から「確固たる経営基盤で国の医療を支える」というミッションに加え、「クライアントに愛情を持って親身な対応」という目標も追及していくため、予算ヒアリングのフォーマットを大きく変更しました。



予算ヒアリングでは毎年各病院・施設ごとに「1年後の姿」を設定し、その実現に向けて部門ごとの具体的なアクションを掲げていますが、今年は新たに「安全」、「経営」、「親身な対応」という3本の柱を設定。それぞれに事業別の指標を設定し、昨年実績を参考に目標数値とそこに向けて貢献できる具体的なアクションを提示しています。

5. 『安全』に対する各部門貢献(サマリー)

事業	項目	指標	2022 実績	2023 目標	部門	貢献する内容(サマリー)
外来	インシデント 患者誤認発生件数 (ひしめし1以上)	0	0	0	【医局】 ・レベル4.0の報告を促す。 ・常に外来では常に職員に準拠し、注意を喚起し、以上に関しては、軽微なミス、標準的なミス、 今後は患者レベルの影響が出る前に職員が自ら気づき、対応し、患者に気づかれないよう対応する。 【病室】 ・患者誤認防止予防月報を実施し、5月期以降、 【リハ】 ・外来医師との連携を強化し、緊急事態を確認する。 ・分入病の指室呼称を徹底する	
						【検査科】 ・種別異を使用。撮影台での安全に気を配り、インシデントの起こりにくい体制で運営する。 ・検査時には名前を覚えてもらい、確認を徹底し、検査を実施する。 【事務科】 ・まずは名前を確認し、案内、作業を行い、患者誤認のないように外務につなげる。



さらに今年は、「SDGsチャレンジ項目」から病院の1年後の姿を設定しました。



各病院・施設の職員の皆さんは、新しいヒアリング項目についてもうまく汲み取って、とても柔軟に対応してくれています。



そもそも私たちが考える「愛情を持った親身な対応」というのは、患者さんが「メディカルスタッフはいつも自分のことを見ていてくれる」「常に自分の状態の変化を把握してくれている」と安心感を持ってもらえることです。決してうわべだけの対応ではありません。

これを実現するには、事務職員の皆さんが医療スタッフの負担を減らせるようにできる限りサポートを行うことも必要不可欠です。これにより医療スタッフに余裕が生まれ、患者さん一人一人に目が届きやすくなり、よりきめ細やかに把握することが可能になります。

自部署のことだけでなく、他部署とも連携しながら病院全体がour teamとなり、「愛情を持った親身な対応」を実現することが欠かせません。

全体を通して感じたことは、今年から皆さんにお願いをしている経費削減についての努力があまり見られないということ。オムツ1枚、コピー1枚削減する意識でもっと真剣に取り組んでほしいと思います。

4月に新たに創設されたこども家庭庁でも、すでに医療費の削減についての議論が始まっています。我々の使命は「確固たる経営基盤で国の医療を支える」ことであり、国の医療・介護の予算が削減されたからといって国民に医療の面で寂しい思いをさせないことです。削減すべき部分は削減して経費を抑え、本年度のミッション実現に向け1年間頑張っていってほしいと思います。